

◎「学び合い」による「思考の共有と吟味」

**学び合いを通してめざす子供の姿**

「よし、同じだ。これでいいんだ」(確信)  
 「そうそう、そうなんだよ」(共感)  
 「あれっ、なんか違うな。なぜだ？」(吟味)  
 「ということは、こういうことか」(再構築)  
 「もしかしたら、こうかもしれない」(推理)  
 「だったら、こうしたらどうかな」(創意)



◎ 仲間と考えを共有したり吟味したりすることを通して自分自身の中で対話が生まれ、新たな自分の考えをつくり出すことが「学び合い」の目的。

**教師のコーディネート**

**発問：**『めざす子供の姿』を想定して、中心発問を吟味する。  
 (例えば：〇〇の計算の意味がわかる子)  
**学習活動：**『子供の意識の流れに沿った学習活動』を工夫する。  
 (〇〇と△△は同じ/違うかもしれない)  
**机間指導：**『子供の考えを的確に見取って、学び合いの見通し』をもつ。(ねらいに沿った発言をキャッチ!)  
 『〇〇さんの考えから入って、  
 □□さんの考えを関わらせて深め、  
 △△という考えに着地させよう』

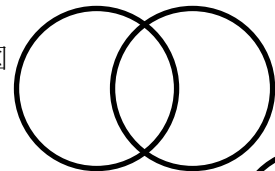
**構造的な板書の工夫**

- ◎ **学び合いを可視化する。**
- 話合いの論点や視点を書く。
- 板書で思考を刺激して深める。  
 (書く位置、空白の部分、色チョーク文字の大きさ、心情曲線など)
- 子供たちの発想を表現する。  
 (KJ法、ブレインストーミング、ウェビングマップ、ランキングなど)
- 子供たちの考えや発言を類型化する。  
 (ベン図※1、クラゲチャート※2など)

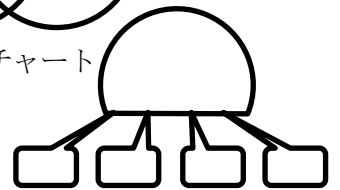
**教師の言葉かけ**

- ◎ **考えをつなぐ言葉かけ**
- 「～さんの考えのよいところはどこですか」  
 (発見)
- 「～さんはどうしてこういう考えが浮かんだと思いますか」(推測)
- 「～さんの考えはどういうことですか」(要約)
- 「～さんの考えの続きがわかりますか」(予想)
- 「～さんの気持ちがわかりますか」(共感)
- 「ヒントが言えますか」(補助)
- ◎ **論理的思考力を刺激するつなぎ言葉**
- 「だとしたら…」「たとえば…」(膨らます)
- 「つまり…」「…をもとにすると」(深める)
- 「もしかすると…」「でも…」(広める)

※1 ベン図



※2 クラゲチャート



私は〇〇だと思います。  
 理由は△△あります。  
 1つ目は……



**聴き方をほめて育てる！**

- ◎ しっかり聴いて反応している。  
 (うなずいている、つぶやいている、笑顔になる、首をかしげる、目を開く)
- ◎ 参考になる内容をメモしている。
- ◎ 発言や発表の内容を確かめている。  
 「たとえば～ということですか？」など

**目的をもったグループ活動とは？**

- ◎ **練り上げてよりよい意見にする。**  
 例) ノートを見せ合いながら説明する。  
 → 良い所に印を付ける。  
 → 考えをつないでまとめる。
- ◎ **出てきた多様な考えを整理する。**  
 例) 付箋紙に書き出す → 発表しながら

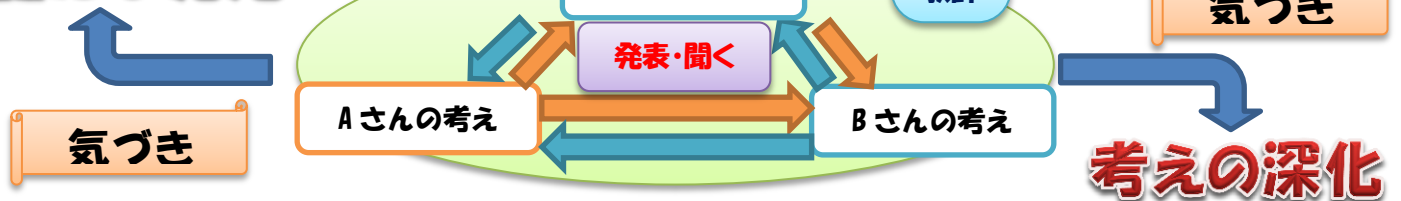
## ◎『学び合い』の授業の重要性

何のために思考を「共有」したり「吟味」したりするのだろうか。自分の考えをもち、友達の考えと比較することで気づきが生まれる。互いのよさを認め合いながら、根拠を明確にして表現する活動を繰り返すことで「思考力・判断力・表現力」が高まる。子供が知的好奇心や学ぶ必然性を感じる学習内容を吟味するなど、明確な授業構想をもつことが大切。

「学び合い」の授業では、互いの考えに反応し合う子供の姿と、**考えをつなぐ**教師の支援が話し合い活動を支える。



### 新たな発見



しかし・・・

話し合いをさせておくだけでは子供の思考力・判断力・表現力は高まらない!

## ◎『対話』がゴールに進むための教師の役割

### ①目立たせる

特に大事だと思うところに注意を向けたり、強調したりする。

### ②もどす

子供に考えさせたいところに話を戻す。

### ③復唱する

子供の表現を繰り返したり、解釈してわかりやすく言い換えたりする。

### ④表現させる

考えを声に出させる。うまくまとめられないことを言わせる。

### ⑤付け加える

適切だと思う情報を付け加える

教師がゴールを意識し、適切に助言する

### ⑥まとめる

子供の表現を要約する



## ◎指導・助言をするときの留意点

### ☆ タイミング

(いつ与えるか、助言をする時期を考えましょう)

### ☆ ポイント

(何について与えるか、中心を押さえて助言しましょう)

### ☆ ボリューム

(どのくらい与えるか、分量を考えましょう)

### ☆ レベル

(どの程度のものを与えるか、子供たちの能力や段階を考えましょう)